

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

令和5年度農作物病虫害発生予察情報について

令和5年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

令和5年度農作物病虫害発生予報第1号

令和5年5月2日  
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が23.0%、25株当たりの本田生息虫数が1.1頭)。
- (2) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田防除を行う。
- (2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 前年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、3月第4半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.5%、芽基部発病率が0.0%)。
- (3) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病葉率が0.1%と、平年(28.8%、3.9%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類

#### 1) 予報内容

- |      |                             |
|------|-----------------------------|
| 発生時期 | 平年より早い                      |
| 発生量  | 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」 |

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、6地点で越冬を確認した。越冬成虫は0.6頭/m<sup>2</sup>であり、平年(2.6頭/m<sup>2</sup>)よりやや低い越冬密度で、前年(成虫確認地点数が8地点、越冬成虫数が2.0頭/m<sup>2</sup>)に比べてやや低い越冬密度であった。
- (2) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月21日)より9日早い4月12日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬～5半旬までの誘殺数は、平年より少なく推移している。
- (3) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は早朝か夕方に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

## Ⅲ. 野菜

### 夏ネギ

#### さび病

#### 1) 予報内容

- |     |                          |
|-----|--------------------------|
| 発生量 | 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」 |
|-----|--------------------------|

#### 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平年(11.4%)並の発生であるが、発病株率は0.2%と、平年(1.0%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、圃場外で処分する。

#### ネギアザミウマ

#### 1) 予報内容

- |     |                         |
|-----|-------------------------|
| 発生量 | 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」 |
|-----|-------------------------|

#### 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が77.8%と、平年(81.6%)並の発生であるが、被害度は2.9と、平年(5.4)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

## ネギハモグリバエ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、被害度が0.1と、平年(63.8%、3.0)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月27日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

## IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。